



医学部生における医学教育の現状と改革

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学医学教育推進センター 公開日: 2013-06-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 梅村, 和夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2674

医学部生における医学教育の 現状と改革

医学教育推進センター

梅村 和夫

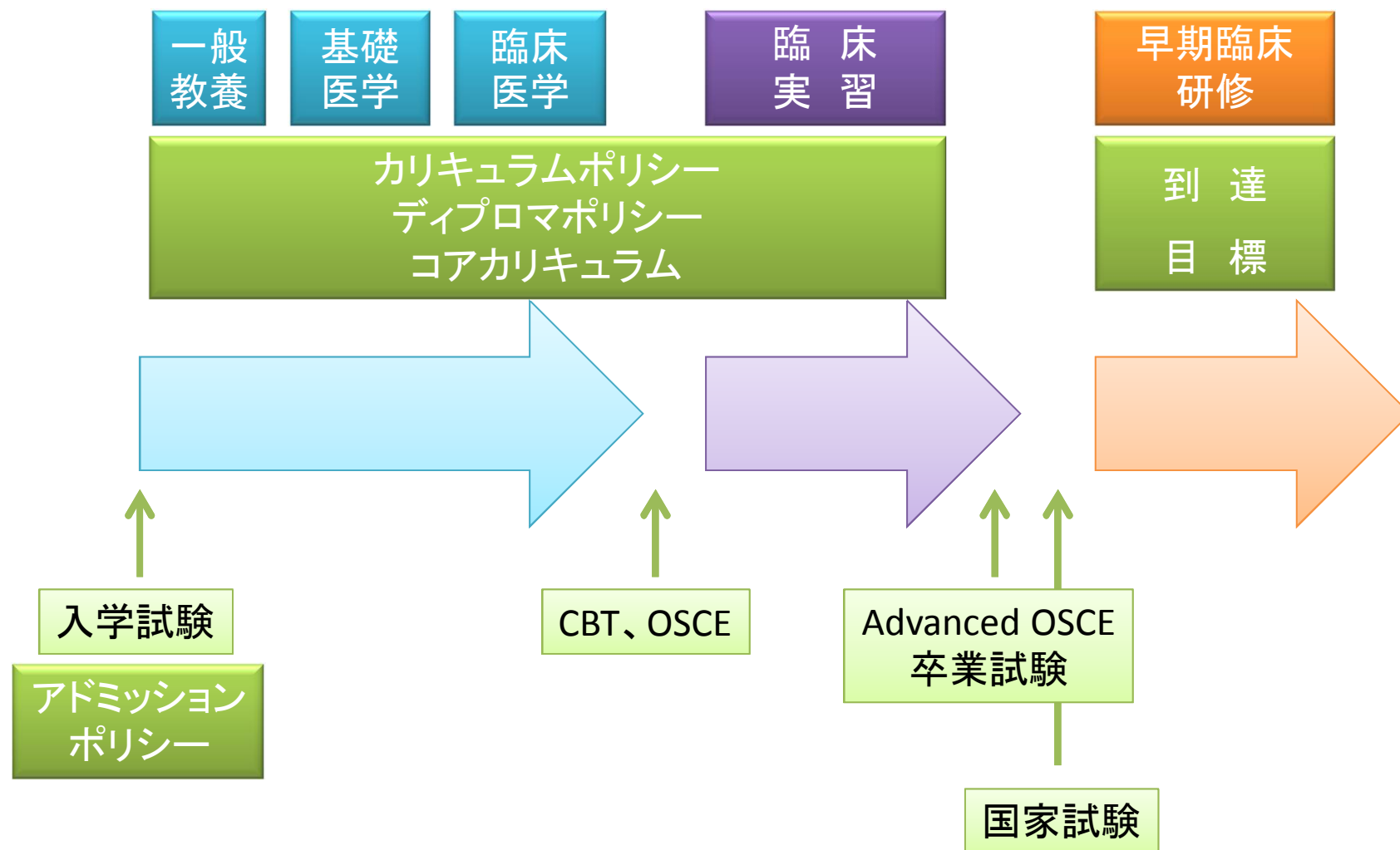
建学の理念

第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、
第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、
第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、
以て人類の健康と福祉に貢献する

大学の目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

医学部生から早期臨床研修医への医学教育カリキュラム



アドミッションポリシー

求める学生像

本学は次の時代を担う君たちの活躍を期待しており、建学の理念を尊重する次のような人材を求めています。

- ④ 医学を学ぶために必要な幅広い基礎学力と応用能力を持っている人
- ④ 医師あるいは研究者として生涯を通して最新の医学知識を吸収できる人
- ④ 人への思いやりとチームワークに必要な協調性を持っている人
- ④ 地域に根ざし大きくはばたくという意欲を持って活躍できる人で、この地の医療にも貢献できる人

ディプロマポリシー

1. 生涯学習能力

最新の医学知識・技能を習得するにとどまらず、自己評価能力を身につけ、生涯にわたってこれらを学習する習慣

2. 問題解決能力

自ら積極的に課題を探求し、主体的に問題を解決する能力

3. プロフェッショナリズム

豊かな人間性、コミュニケーション能力・倫理観などのプロフェッショナリズムを身につけ、患者、患者家族、医療チームと良好な関係を築き、責任をもって医療を実践できる態度

4. 研究心

論理的思考と倫理原則に従った科学的探求心

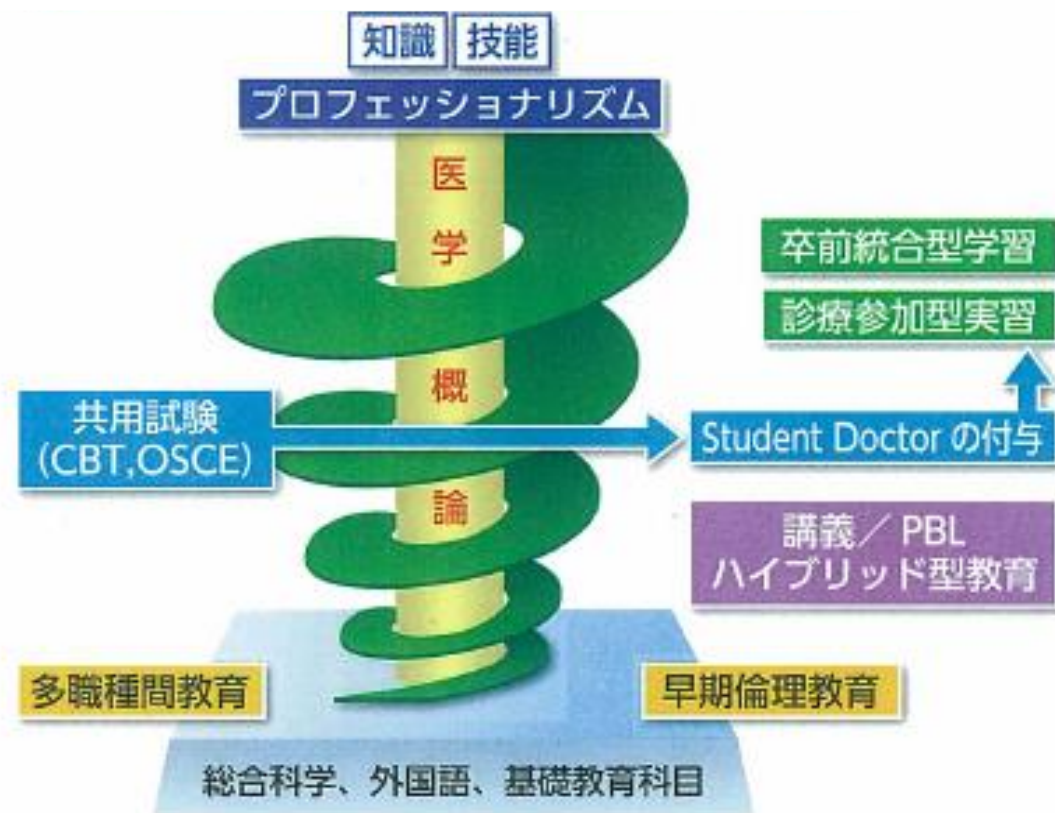
5. 社会に貢献できる能力

医療に対する社会的ニーズを認識し、国内外で広く社会に貢献できる能力

6. 国際性

国際的に活躍するための語学力と豊かな教養

6年一貫らせん型カリキュラム



早期臨床研修の到達目標

行動目標

医療人として必要な基本姿勢・態度(16項目)

経験目標

- A 経験すべき診察法・検査・手技(60項目)
- B 経験すべき症状・病態・疾患(125項目)
- C 特定の医療現場での経験(28項目)

医療人として必要な基本姿勢・態度

1. 患者－医師関係

患者

2. チー

医療

なる他

3. 問題

患者

を身に

4. 安全

患者

危機管

5. 症例

チー

う

6. 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献する

何を知っているだけでは不十分で

1. どのような態度が必要か

2. どのように行動できるか

3. どのような技術を使えるか

が問われている

種から

の習慣

に付け、

換を行

医学教育における変化

Knowledge-based
education

医師



知 識

卒業



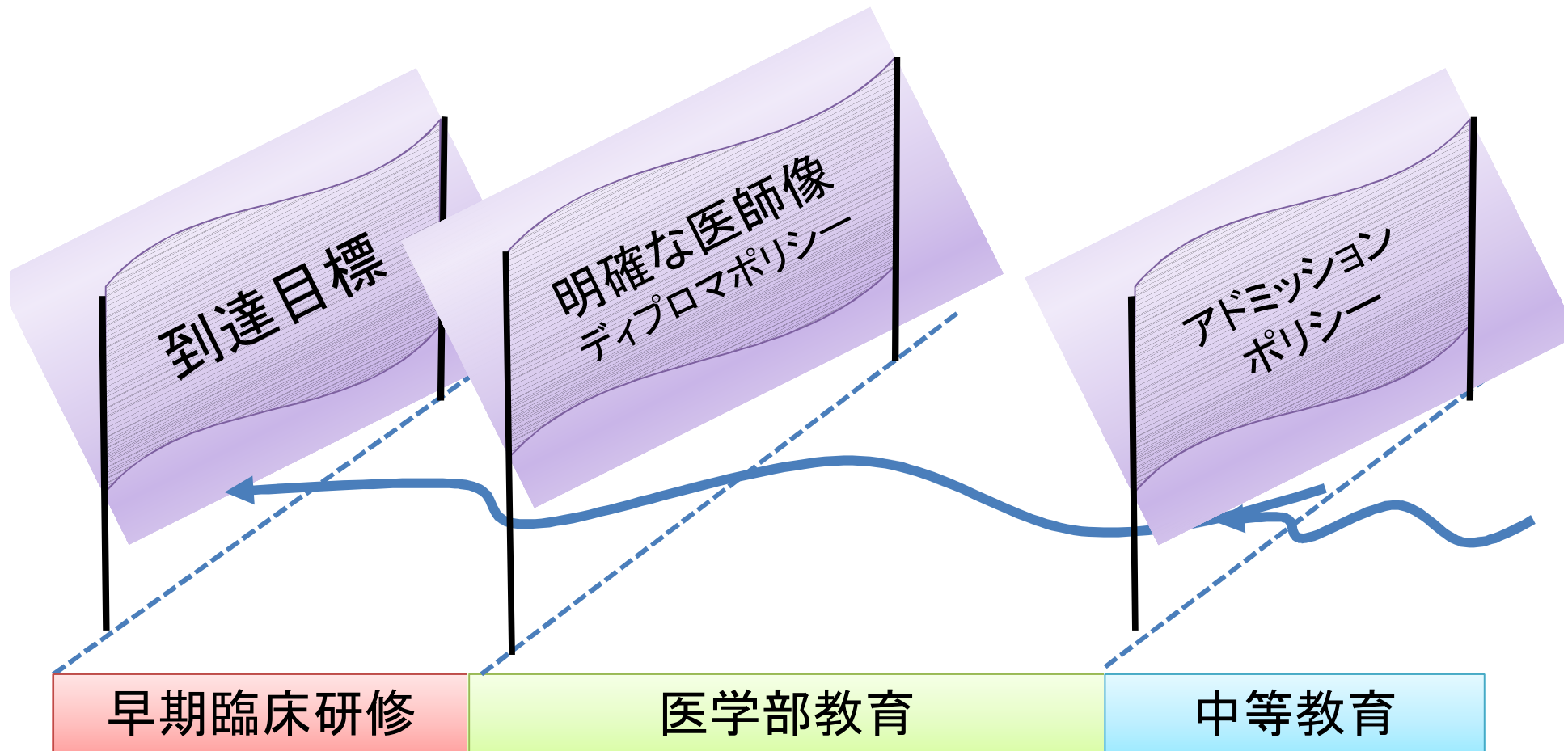
Outcome-based
education

ゴール
明確な医師像

卒業



Outcome-based education



医学教育における変化

ICT活用: Web講義、E-learning

知識の習得: 自習が中心となる

医学概論

スモールグループディスカッション

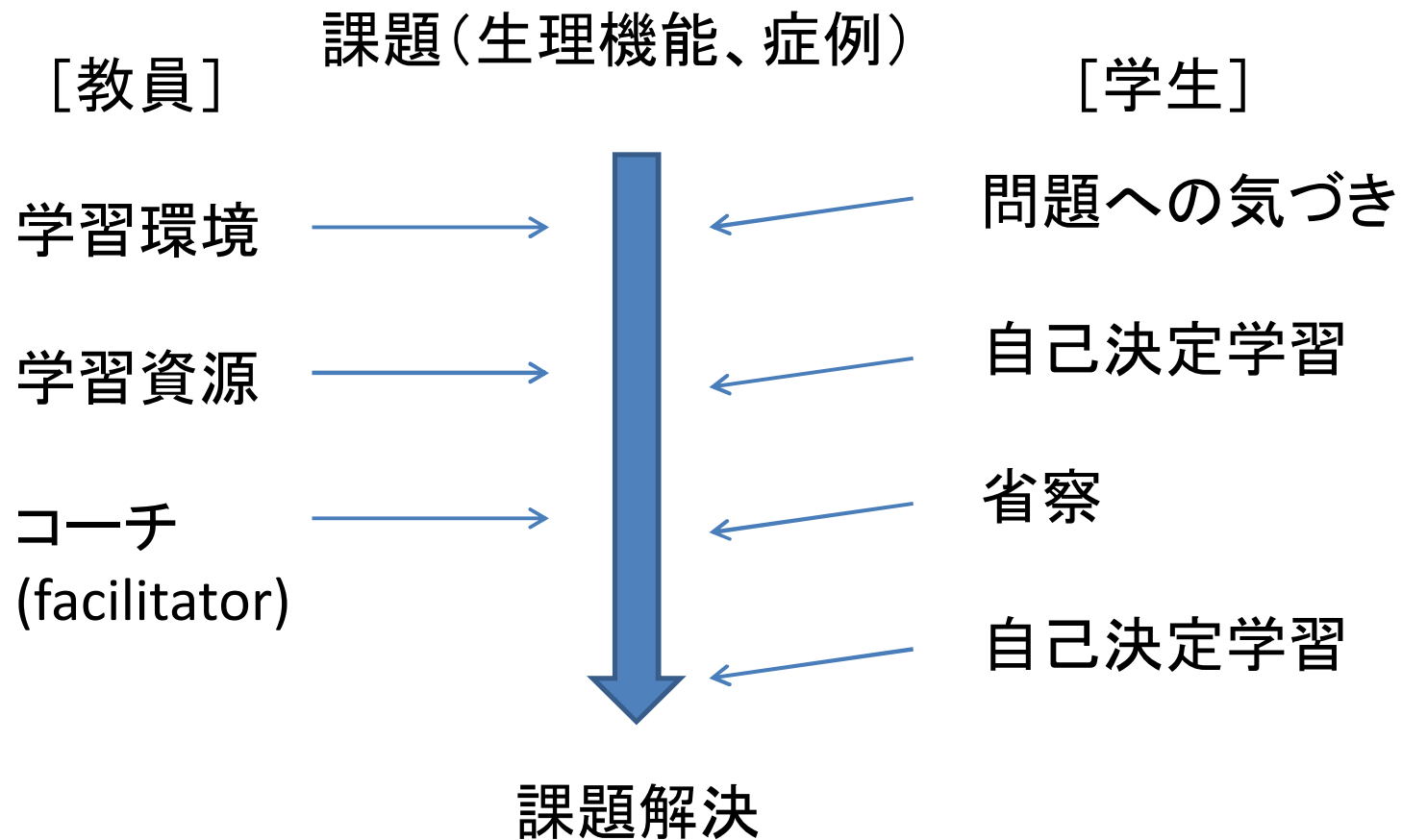
PBL-チュートリアル

参加型臨床実習

態度・技能を習得

大学での授業は討論、実習が中心となる

自己問題解決能力



PBL-チュートリアル

✓スモールグループ討論

1. ファクトの抽出
2. 仮説の立案
3. 学習項目の抽出

✓自己学習

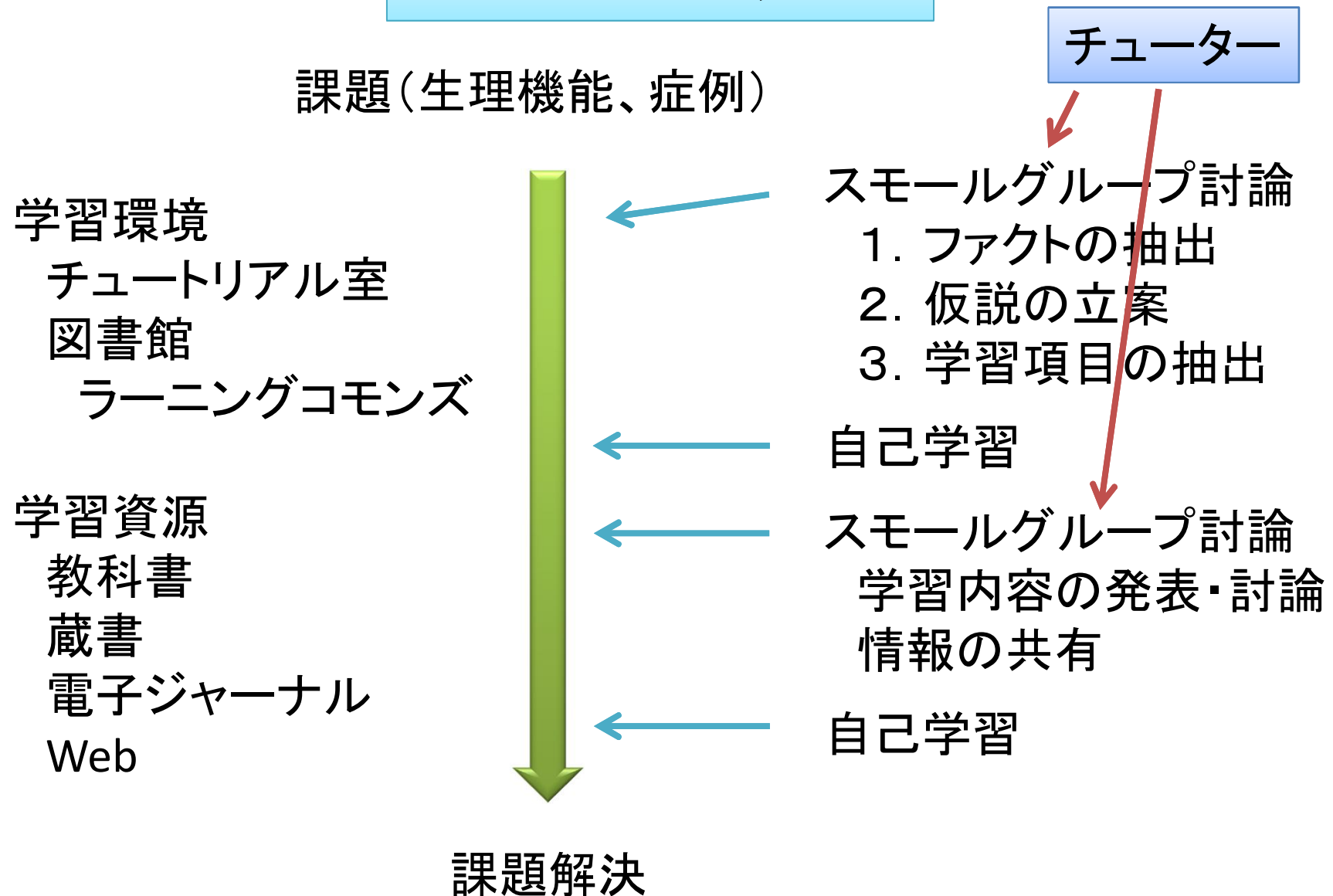
✓スモールグループ討論 学習内容の発表・討論 情報の共有



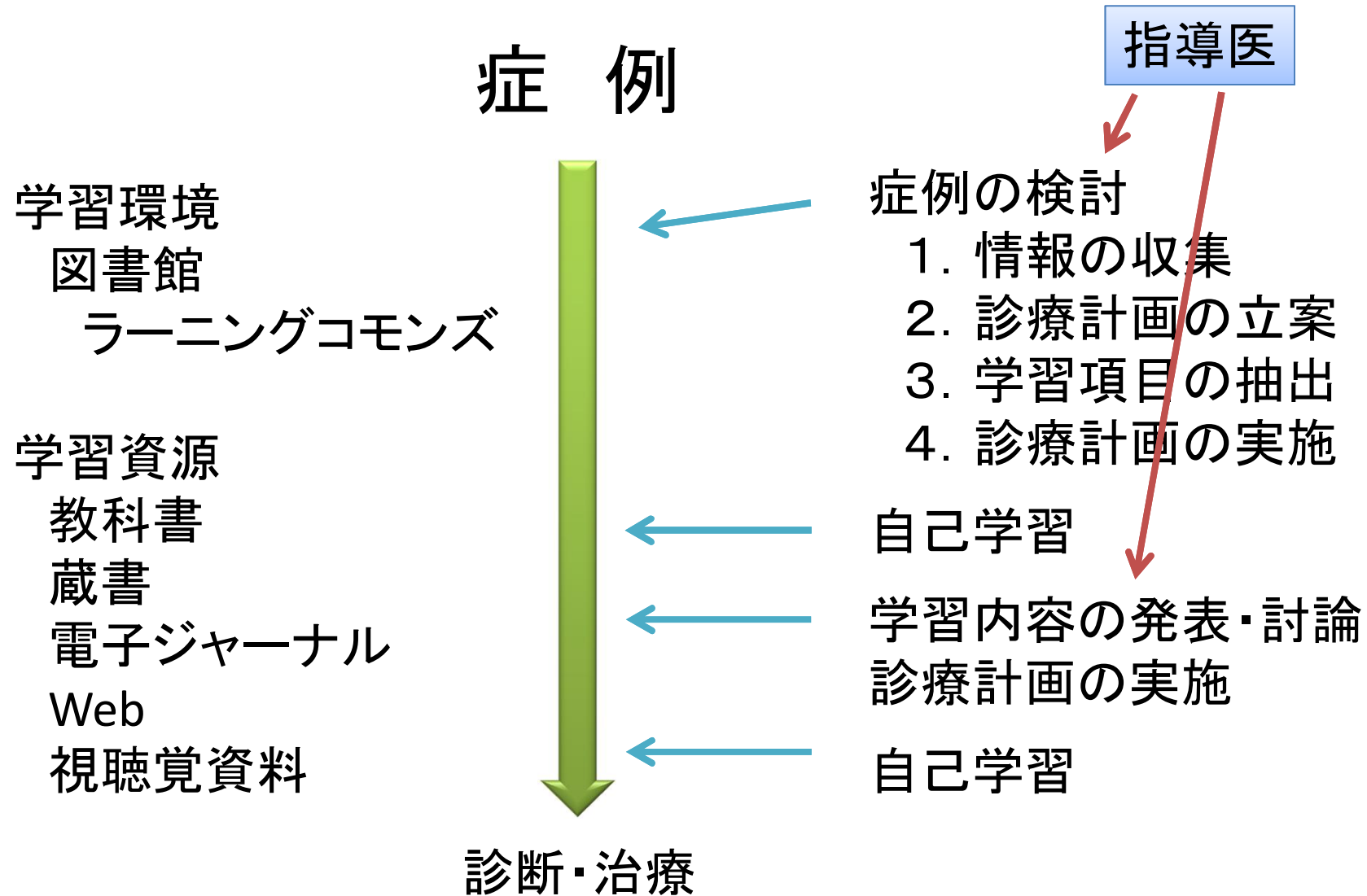
チューター



PBL-チュートリアル



クリニカル・クラークシップ



国際基準に対応した医学教育認証制度

アメリカで医師として診療するための試験であるECFMG受験の資格を規定した。

2023年以降はLCME(アメリカ医科大学協会)、WFME(世界医学教育連盟)の基準に認定されていること。

日本では、JACMEを設立して、国際基準に準拠した評価基準の作成を進めている。

国際基準との改革へ向けて

- ✓ 臨床実習の時間数の確保
家庭医育成、地域医療学の推進
- ✓ 参加型臨床実習の充実
- ✓ Outcome-based educationへの改革
- ✓ 評価系の充実
- ✓ プロフェッショナリズム教育
- ✓ 自己学習の習慣

プロフェッショナリズム教育

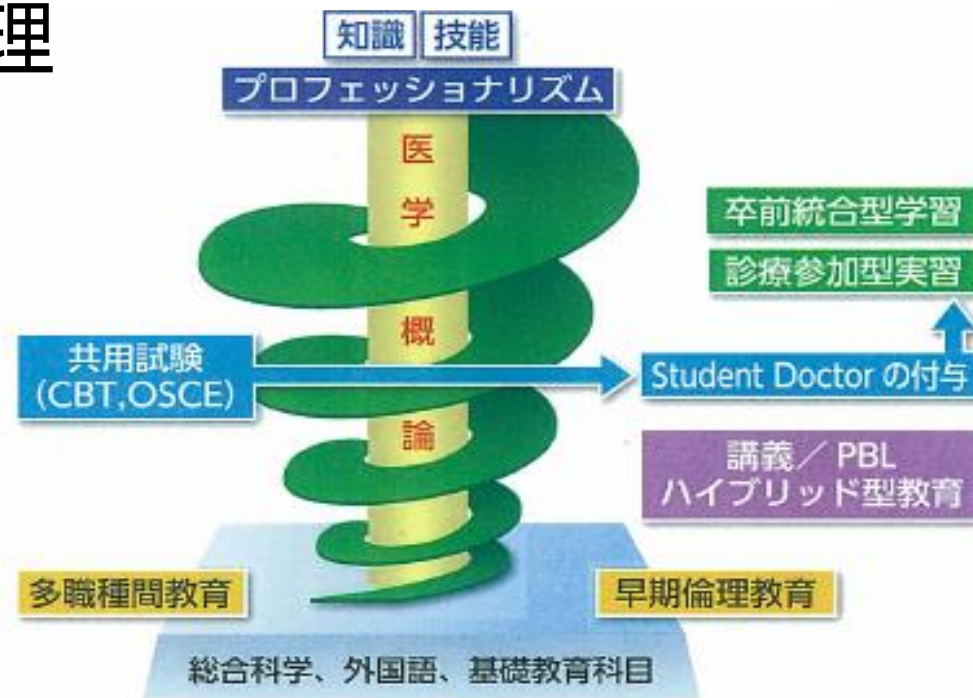
医師のプロフェッショナリズムは、自律性を持ち、社会契約に基づいた医師という専門職の姿勢・構え・行動様式であり、その背景には健全な倫理観がある。

「目で見える」行動様式の評価

1. 医師・患者関係構築能力
2. 省察能力
3. 時間管理能力
4. 医療者間関係構築能力

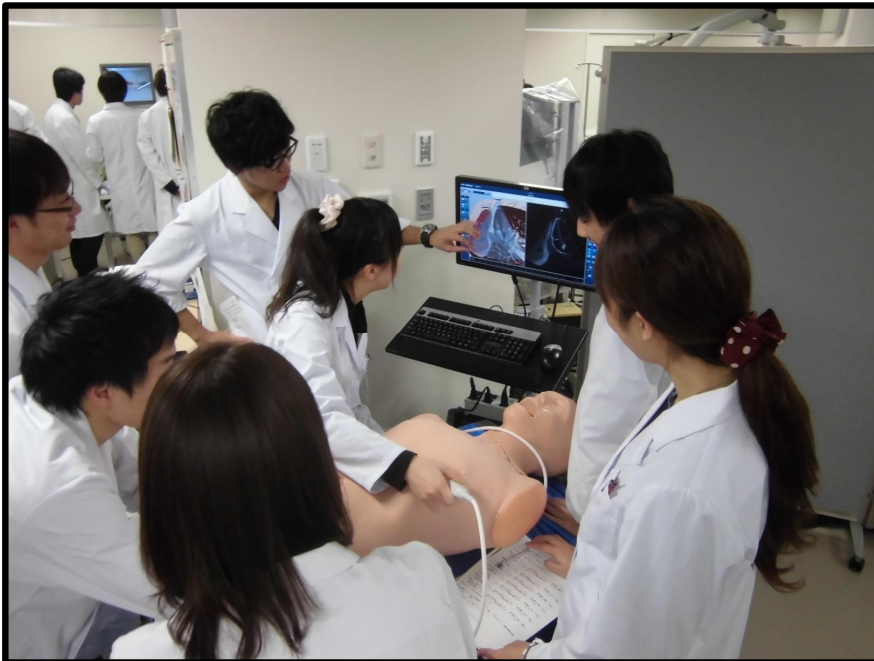
医学概論による教育

早期臨床体験
コミュニケーション能力
生命医学倫理
臨床倫理
医史学



シュミレーターによる教育

参加型臨床実習の充実
技術の習得にシュミレーターを用いる



ポートフォリオによる評価

自己評価

態度、行動、技術、知識

指導医による評価

第3者（患者、コメディカル、同僚）による評価

多角的（360度）評価

ま と め

プロフェッショリズム教育の推進

倫理観に裏付けられた医師としての姿勢・
構え・行動様式

Outcome-based educationの実施

明確な目標、何を理解し、何ができるか

自己問題解決能力の育成

自己学習の習慣、学習環境の整備

臨床実習の充実

参加型臨床実習の実施、何ができるか

評価の標準化

多面的な評価、行動・態度の評価